

森の中で風を感じよう

2010 MTBO のつどい 2010年5月16日 長野県富士見町

三条 OC
藤島由宇

日本では年に1回しかないMTBOのイベントです。

MTBOとは？

マウンテンバイクオリエンテーリング(MTBO)は、マウンテンバイクを用いて行うオリエンテーリングの種目です。世界選手権は2002年7月に第1回大会がフランスで開催され、今年のポルトガル大会では第8回目の開催となります。またジュニア世界選手権も2008年8月のポーランド大会から実施され、今年で3回目を迎えます。

MTBOの最大の魅力は、そのスピード感と言えましょう。登りはフットOと同様にきついですが、下りで風とともに感じられる森林の緑が高速で流れて行く風景は、フットOでは味わえない爽快さをもたらします。

MTBOでは道を通るか、道でない所はMTBを担いで進まなければならないルール(イベントによっては道しか通ってはならない)ですので、オリエンテーリングの技術としては素早いルートチョイスが求められますが、高速走行時にはマップホルダーに入っている地図は振動で揺れ、選手も前を見て走らなければならないためフットOのようにいつでも地図が読めるわけでは有りません。いかにタイミングを捉えて地図を読みルートチョイスを行い、登りではスピードを殺さずに一生懸命こぎ、下りでは転倒する直前までより追い込んでスピードを上げて走れるかが勝負の分かれ目と言えそうです。

MTBOに必要なもの

MTBOを楽しむために必要なものをリストアップしてみましょう。

MTB…本イベントの参加者に使用しているMTBの金額を尋ねてみた所、3万円～40万円という回答を得ました。価格が高いほど本体となるフレームが軽量で丈夫な作りとなっており、およそ1000個にも及ぶ各種部品もグレードアップすることが可能です。

ヘルメットとグローブ…頭と手を保護するために絶対に必要です。街で自転車に乗る時でも安全のためにヘルメットはかぶりたいものです。ヘルメットは数千円、グローブは指の部分がカットされているものがよく使われている



優勝したレース中の名児耶敏也選手。初参加した昨年の世界選手権で惨敗し、リベンジを果たすためにトレーニングを積んできた成果を見事に発揮した。

ようで、ホームセンター等なら1000円程度から手に入ります。

マップホルダー…市販のものを使用している方が多いですが、自作されている方もいらっしゃいます。

日本では.com/passがMiry社(チェコ)の代理店で、ここでマップホルダー(8,300円)を購入できます。

ウェア…特に決まりはありませんが、スポーツサイクル用ウェアやパンツが市販されています。ジャージなどを履く場合は、チェーンに巻き込まれないよう裾をバンドで留める必要があります。

サングラス・ゴーグル…MTBOでは時速数十キロのスピードで森林を走りますから、木の枝などから目を保護するために用意すべきでしょう。

シューズ…これも最初はジョギングシューズ等で良いと思いますが、慣れて来たら専用のシューズを用意します。専用シューズにはスキーと同様に「ピンディング」と呼ばれる金具が靴底に取り付けられており、シューズをペダルに固定させて走ります。こうすることで漕ぐ力を無駄無くMTBに伝える事ができ、ペダルから足を踏み外す事も

ありませんのでより安全に走行できます。ペダルから足を離すときも少しひねるだけで簡単にはずれます。数千円から数万円まであります。



これがピンディング



EカードやSIカードは小さな巻き尺のようなホルダーに取り付け、それをMTBに固定しなければならない。

はじめての MTBO

オリエンテーリング暦は 20 年以上ですが、MTB 暦は数日という筆者。ルートチョイス自体は慣れたものですが、先に書いたように走っている時は地図が読めません。分岐で減速したり、コントロールに到達してパンチしたりするときなどに地図を読み、1 レッグずつ時間をかけて廻りました。

下りはもの凄く快適ですが、登りは一生懸命こぎます。ルートの先に登りが有るかどうかを等高線できちんと読み取っておかないと、ギアを登り用にシフトしきれないまま登りに差し掛かってしまい MTB がストップします。このギアのチェンジや登りでのこぎ方は練習が必要です。



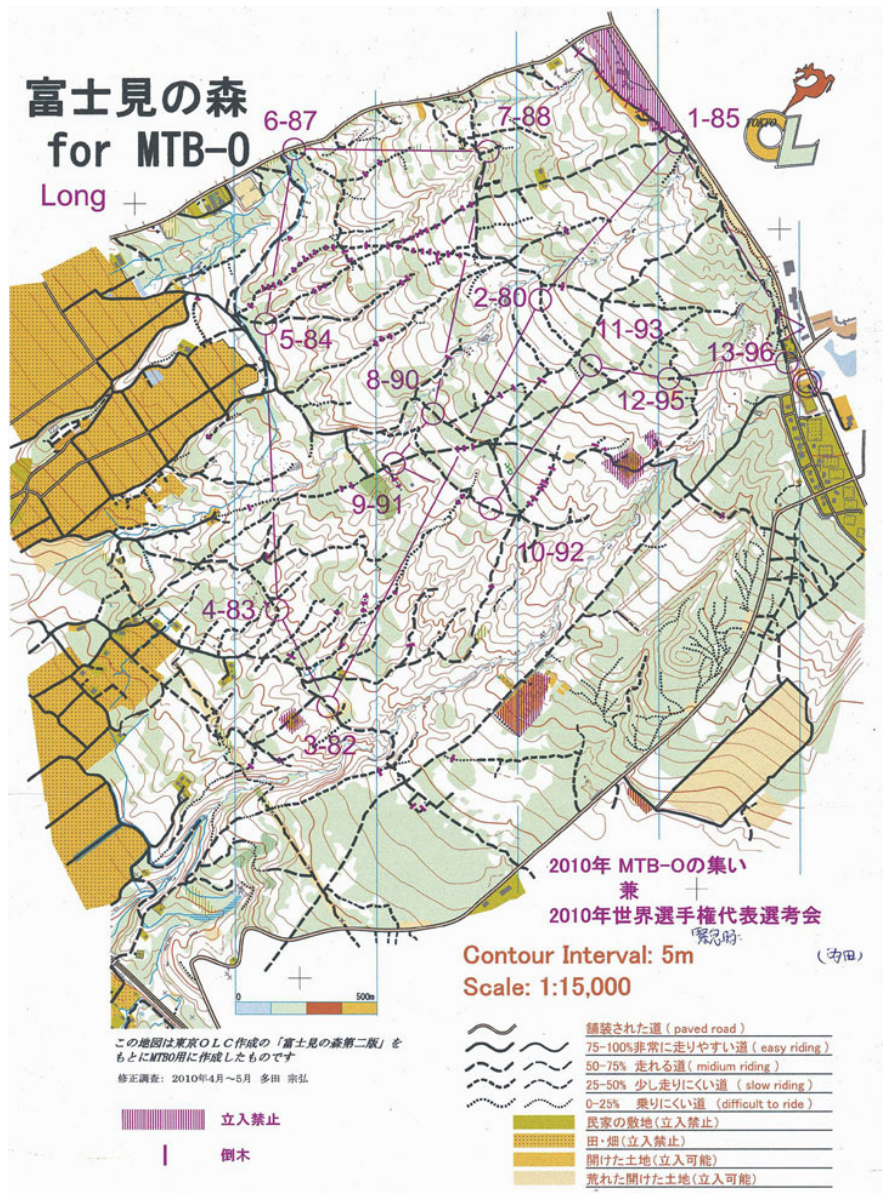
パンチはこのように E カードを引っ張り出して行く。

ファミリーで楽しんで欲しい MTBO(とスキーO)

今回のイベントには唯一のジュニアとして羽鳥咲和(はとりさな・中学1年)さんが S クラスに参加しました。父は今年の世界選手権に日本代表で出場する羽鳥和重選手です。



レース後の羽鳥咲和さん。今後の目標を尋ねたら、「男子のクラスで優勝して表彰台で 2、3 位の男子を従えたいです!」と話してくれた。



今大会のマップ。道は路面状況に応じた MTB での走りやすさで 4 段階に区分される。また建物など、ISOM での道以外の黒い記号はグレーで表記されている。

羽鳥ファミリーはフットOはもちろん、MTBO もスキーOもエンジョイしています。もともと MTB もスキーもファミリーで楽しむレジャースポーツとして世界的に広まっており、日本でも市民権を得ているスポーツですが、これらに「O」がつくとその愛好者数は数十人に激減してしまう現状です。

MTB やスキーを楽しむオリエンティアがもっと増えて欲しいと思います。特にファミリーオリエンティアの方は、「羽鳥さんを見習って」ではないですが、お子さんとともにエンジョイしていただきたいと願うものです。いずれも道具を使う種目ですから、「道具を大切に作る心」を育む事がきっとできるでしょう。そしていずれの種目にも「JWOC」があるので、お子さんに世界

を目指させるのも大変素晴らしいことだと思います。フットOだけやっているとほったいないですよ!



八ヶ岳と田植え直前の水田

(藤島由宇)